

事業評価調書

◎基本情報

年度	令和5年度	会計コード	10	一般会計	事業コード	70184
事業名	火災対応力強化費					
評価担当課	所 属	消)警防部 消防救助課			電話番号	011-215-2060
施策名	強じんな消防・救急体制が構築され、市民の安全・安心が守られて					
アクションプラン	● 対象 ○ 対象外					
事業の性質	○ 経常経費 ● 臨時的経費			○ 内部管理 ○ 法定経費 ○ 指定管理費		
	● 直営 ○ 一部委託 ○ 全部委託 ○ 補助・助成 ○ その他					

事業内容	事業の背景(現在の状況、社会的課題)	【背景】 ・人口減少の一方、高齢者は今後も増加(人口の4割を推移) ・建物の高断熱・高気密化 ・全国的に火災現場での消防職員の受傷事故が絶えない。 【課題】 ・火災時における高齢者の逃げ遅れの増加 ・消火困難な建物への対応 ・建物性能の向上により、火災時における隊員の内部進入の困難性・危険性が増加
	事業内容(何を実施し)	【事業内容】 ①新たな消火・換気戦術の構築に向けた資機材整備 ②基準出動計画見直しを含めた体制の整備を行う。 ③水力換気ノズルを用いた消火戦術の活動モデルを構築し、機動水槽隊が中心となり、各隊に標準化 【実施結果】 ①水力換気ノズルを水槽隊23隊に配備及び熱画像直視装置を指揮隊5隊に配備 ②基準出動計画を改正 ③各署に対し研修を実施し、取扱い要領及び消火戦術の共通認識を図った。
	どのような状態にしたい(状態を維持したい)	火災時に先着する部隊が早期に水力換気戦術を実施でき、逃げ遅れ者の救出、被害の軽減に繋げる。
	他都市の状況	海外(欧米)においては、ハイドロベントという名称の換気ノズルが既に取り入れられているが、日本国内には流通しておらず入手が不可能である。このことから、民間企業と共同で地域実情も踏まえた、独自の水力換気ノズルの研究・開発を行い、国内では札幌市消防局の取組が全国初の先進事例となる。
	市民参加の実施	☐ 企画 ☐ 実施 ☐ 評価 ☒ 対象外

令和4年度決算額	0 千円	うち特定財源	0 千円	正規職員業務量	0 人工
令和5年度予算額	10,000 千円	うち特定財源	0 千円	正規職員業務量	1 人工
令和5年度決算額	8,649 千円	うち特定財源	0 千円	正規職員業務量	1 人工
令和6年度予算額	9,300 千円	うち特定財源	0 千円	正規職員業務量	1 人工

指標	アウトプット 活動指標1	水力換気ノズルの配置部隊数				という活動、業務を行うことで	
		令和4年度実績	令和5年度予定	令和5年度実績	令和6年度予定	令和7年度予定	令和8年度予定
		6隊	29隊	29隊	51隊	51隊	51隊
	↓						
	アウトカム 成果指標1	水力換気ノズルの配置部隊割合				という状態にしたい、成果を挙げたい	
		令和4年度実績	令和5年度予定	令和5年度実績	令和6年度予定	令和7年度予定	令和8年度予定
		12%	57%	57%	100%	100%	100%
	指標1の評価、未達理由、今後の考え方	新たな消火戦術の確立に向け、計画的な配備に合わせ、研修及び訓練を実施し計画を進めていく。					
	アウトプット 活動指標2					という活動、業務を行うことで	
		令和4年度実績	令和5年度予定	令和5年度実績	令和6年度予定	令和7年度予定	令和8年度予定
	↓						
	アウトカム 成果指標2					という状態にしたい、成果を挙げたい	
		令和4年度実績	令和5年度予定	令和5年度実績	令和6年度予定	令和7年度予定	令和8年度予定
	指標2の評価、未達理由、今後の考え方	新たな消火戦術の確立に向け、計画的な配備に合わせ、研修及び訓練を実施し計画を進めていく。					

今年度の見直し内容	なし
来年度以降の方向性	資機材配備については令和6年度にて達成予定であるが、より効果的・効率的に活用できるよう研修及び訓練を継続していく。